



岡山大学

美しい学都

# 岡山大学の研究戦略と研究開発評価

—コア・コンピタンス解析を中心に—

岡山大学 理事・副学長

山本 進一

## 山本進一 (理事・副学長)



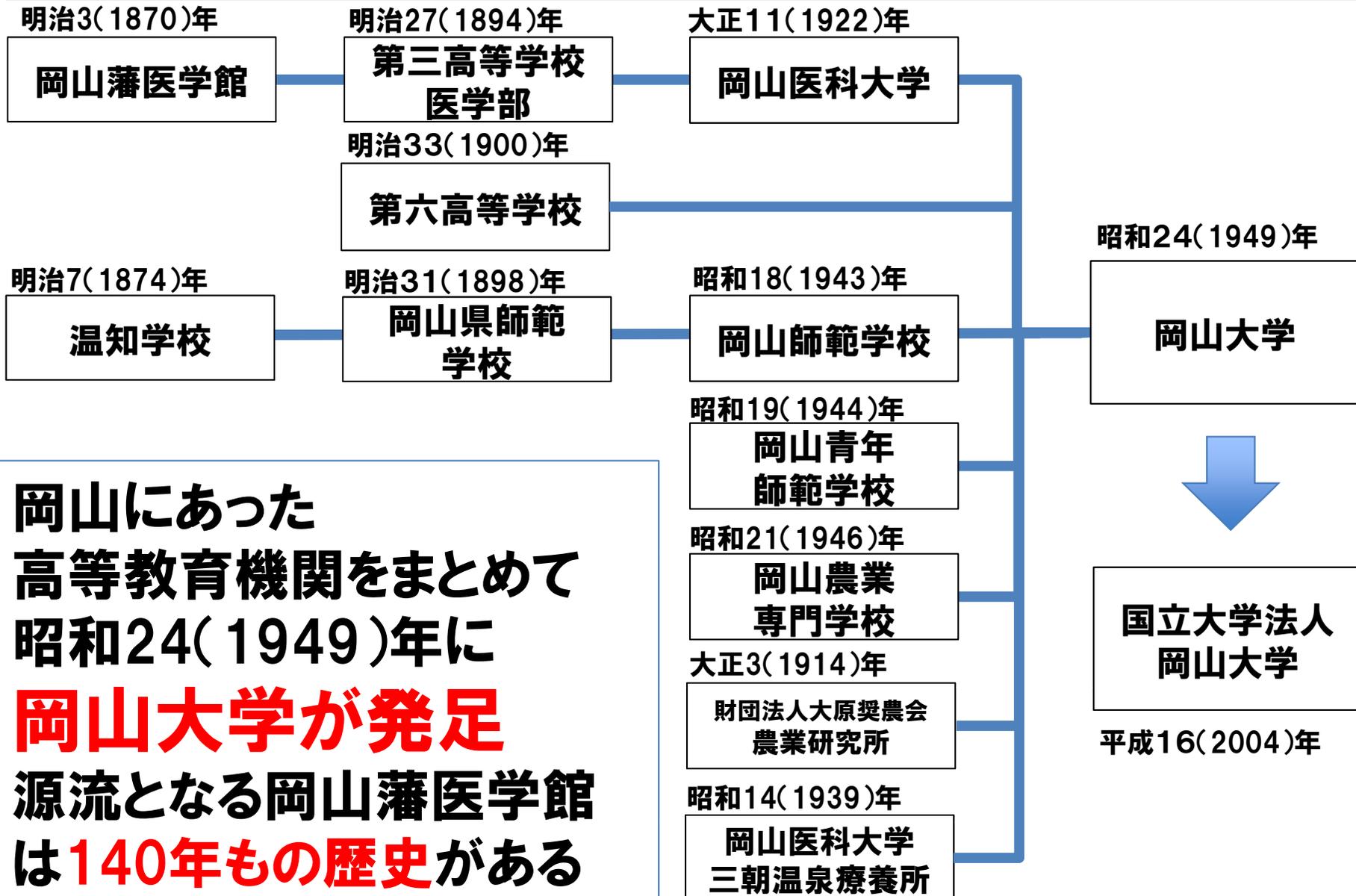
### 経歴：

- 1987 岡山大学農学部 助教授
- 1996 名古屋大学農学部・大学院農学研究科 教授
- 1997 北海道大学低温科学研究所客員教授
- 2002 名古屋大学農学部長・大学院生命農学研究科長
- 2004 名古屋大学理事・副総長
- 2006 日本学術会議連携会員
- 2009 名古屋大学総長顧問
- 2009 名古屋大学高等研究院・院友
- 2010 Research Fellow of Institute of Global Low-carbon Economy, University of International Business and Economics, Beijing, China
- 2010 大学評価・学位授与機構客員教授（併任）
- 2011 岡山大学 理事・副学長

### 専門：

森林科学（森林生態学，森林生命科学）

# 沿革

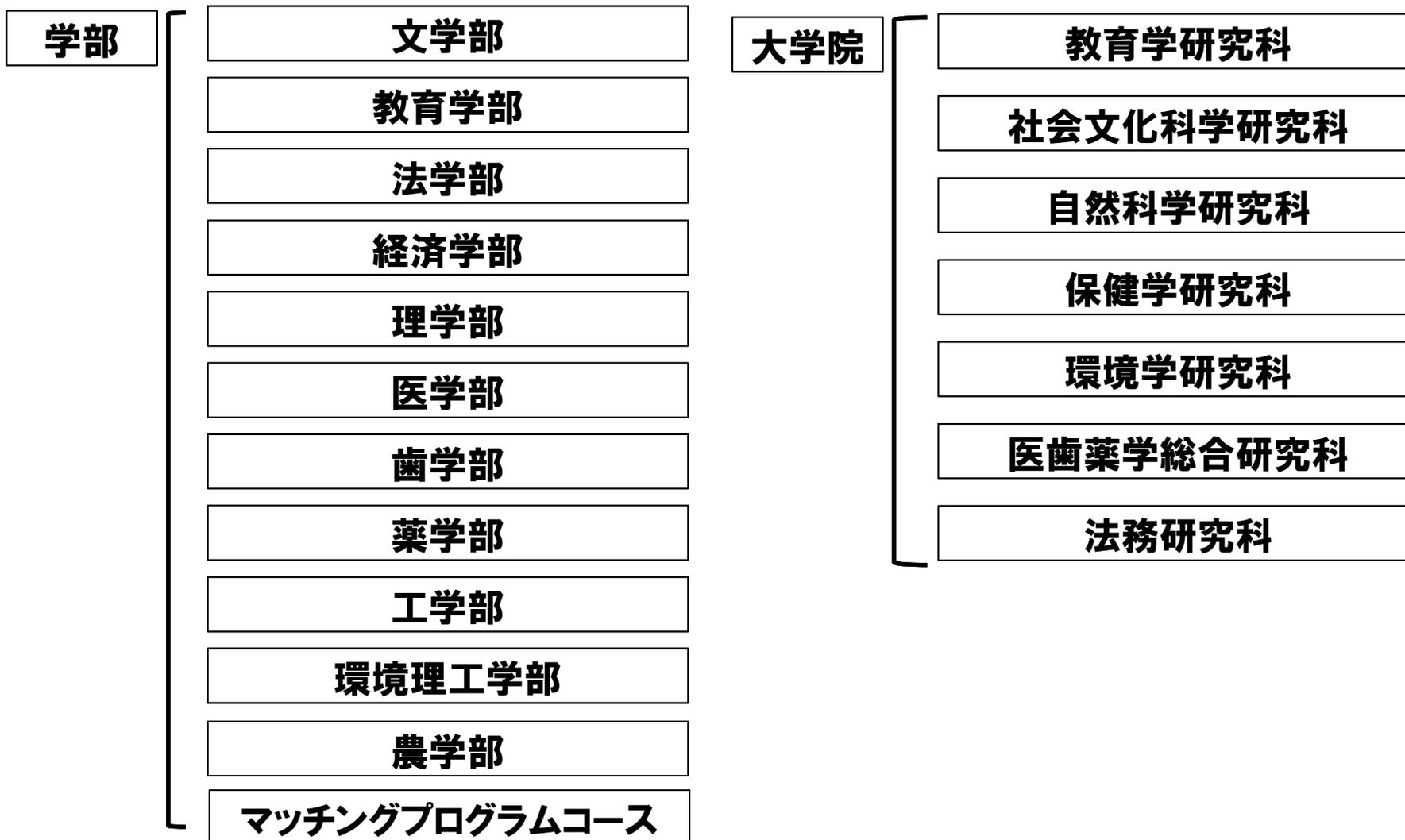


岡山にあった  
高等教育機関をまとめて  
昭和24(1949)年に  
**岡山大学が発足**  
源流となる岡山藩医学館  
は**140年もの歴史**がある



1. 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”
2. 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”
3. 岡山大学の目標
  - (1) 教育の基本的目標  
国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行う。
  - (2) 研究の基本的目標  
常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向する。
  - (3) 社会貢献の基本的目標  
社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利を生かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指す。
  - (4) 経営の基本的目標  
研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用する。
  - (5) 自己点検評価の基本的目標  
不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映する。

# 教育研究組織(学部・大学院)



学部数は全国で2番目に多い11(北海道大12, 東京大10, 京都大10)  
研究科も7を数え, **幅広い学問領域**をカバー

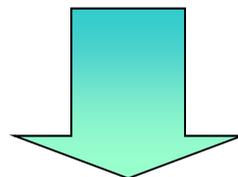
# 研究活動評価に係る中期目標と具体的方策

## 目指すべき研究の方向と水準に関する目標

特色ある学術領域の研究を一層推進して深化させるとともに、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤とした学際・融合領域における新分野創成を目指す。なお、特有の分野では、我が国有数の活力ある学術研究拠点を構築する。

## 研究水準・成果の検証等に関する目標

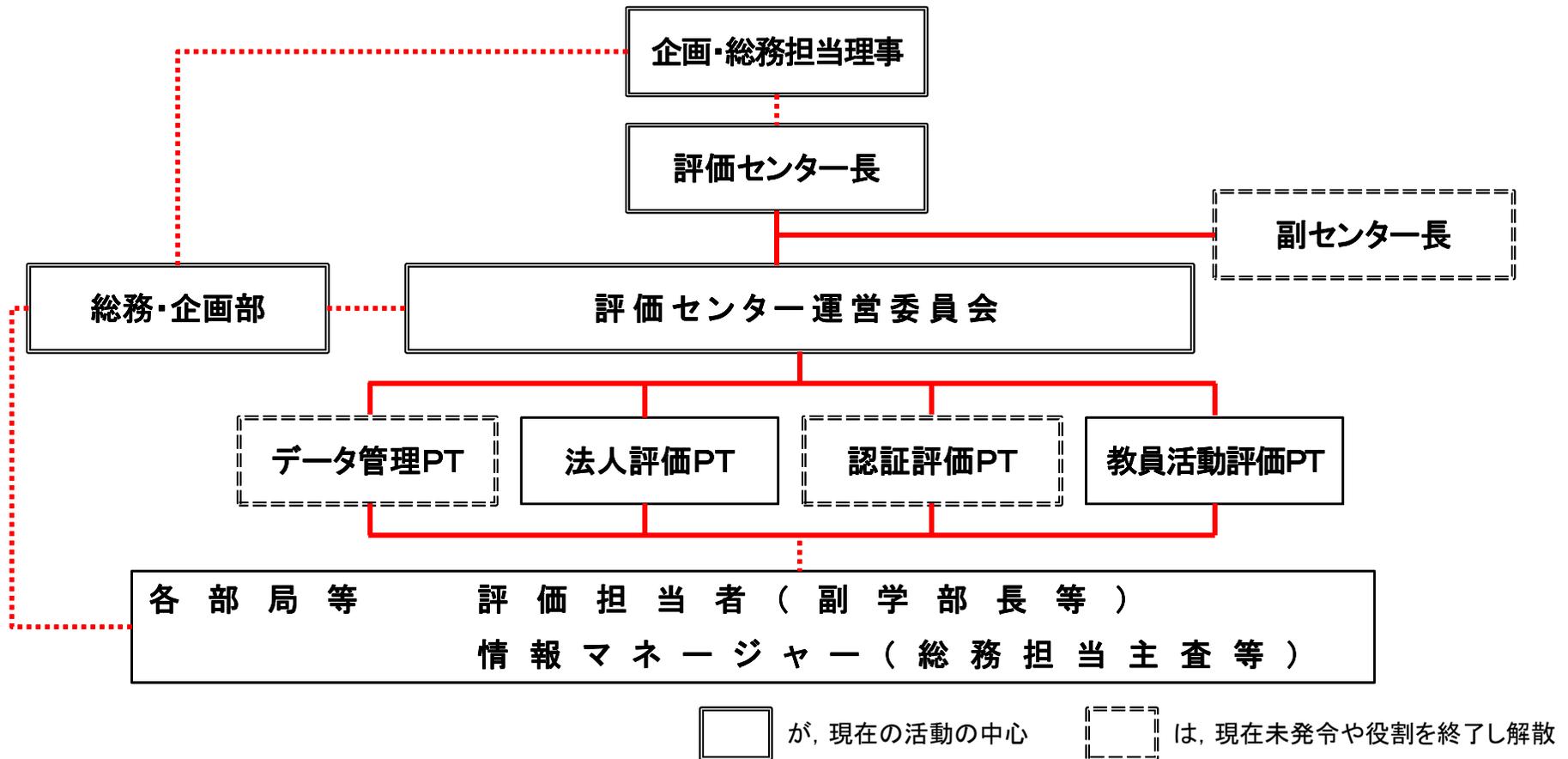
個々の研究者及び研究組織についての検証・評価による研究水準の更なる向上とともに、大学として重点的に取り組んでいる分野について、研究活動とその成果を的確に検証・評価する体制を強化し、研究活動の質的改善や研究水準を向上させる。



## 具体的方策

1. 教員活動評価データベースを活用した各教員の教育研究活動の現状把握(原著論文など)
2. 本学の強みとなる基礎研究領域, 異分野融合領域, 先端研究分野等(重点領域)の抽出
3. 研究者カルテ, 研究戦略マップの作成
4. 「岡山大学教育研究プログラム戦略本部」が, 重点領域の中から戦略的に推進すべき大型プロジェクト研究等を選定, 支援
5. 大型プロジェクト研究等について, 外部評価規程を整備の上, 評価

# 評価センター組織図



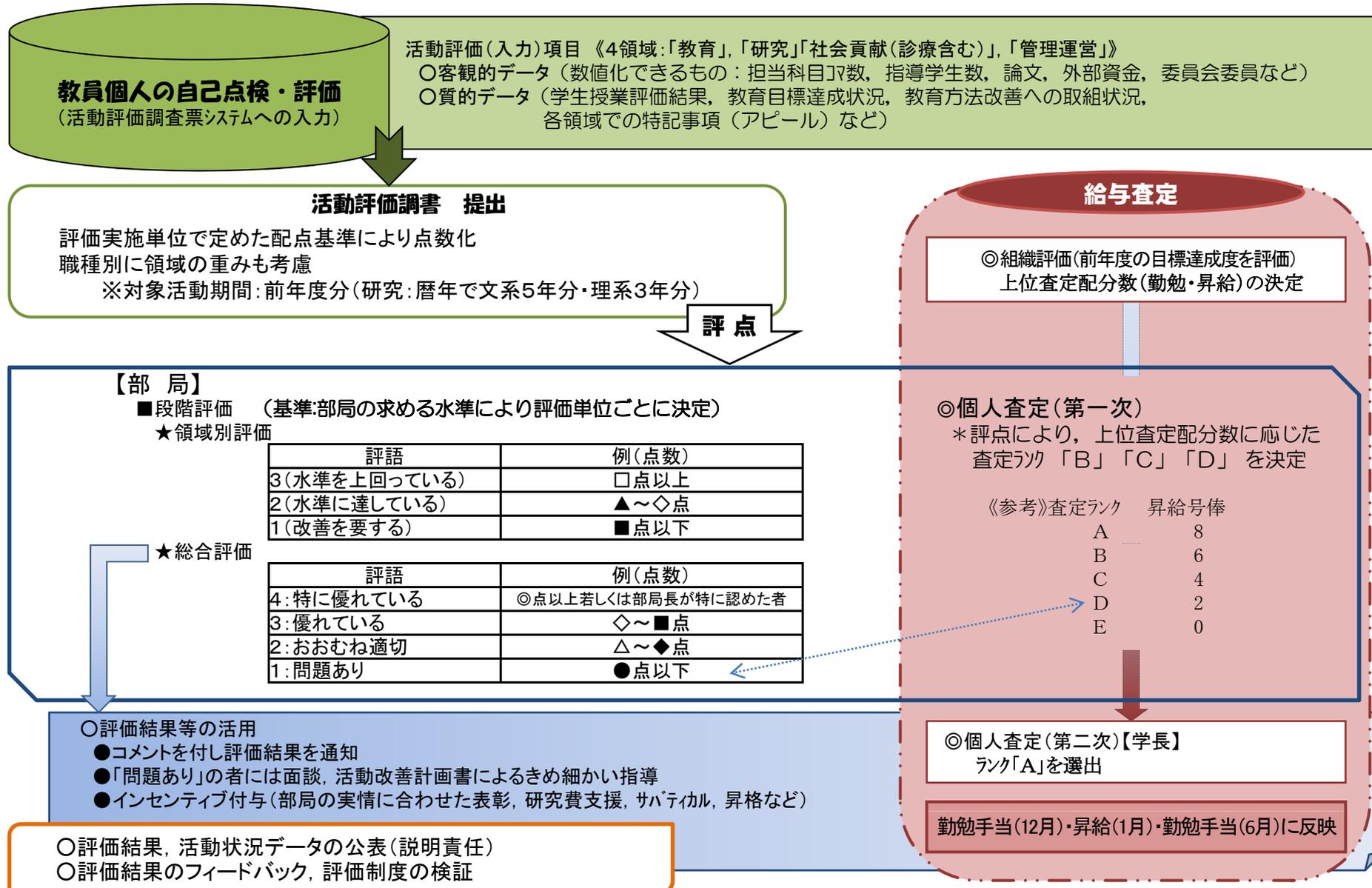
## ◆ 目的

1. 教育研究等の質的な保証：グローバルスタンダード
2. 教育研究活動の活性化を図る：学術レベルの向上
3. 社会への説明責任を果たす：アカウンタビリティ

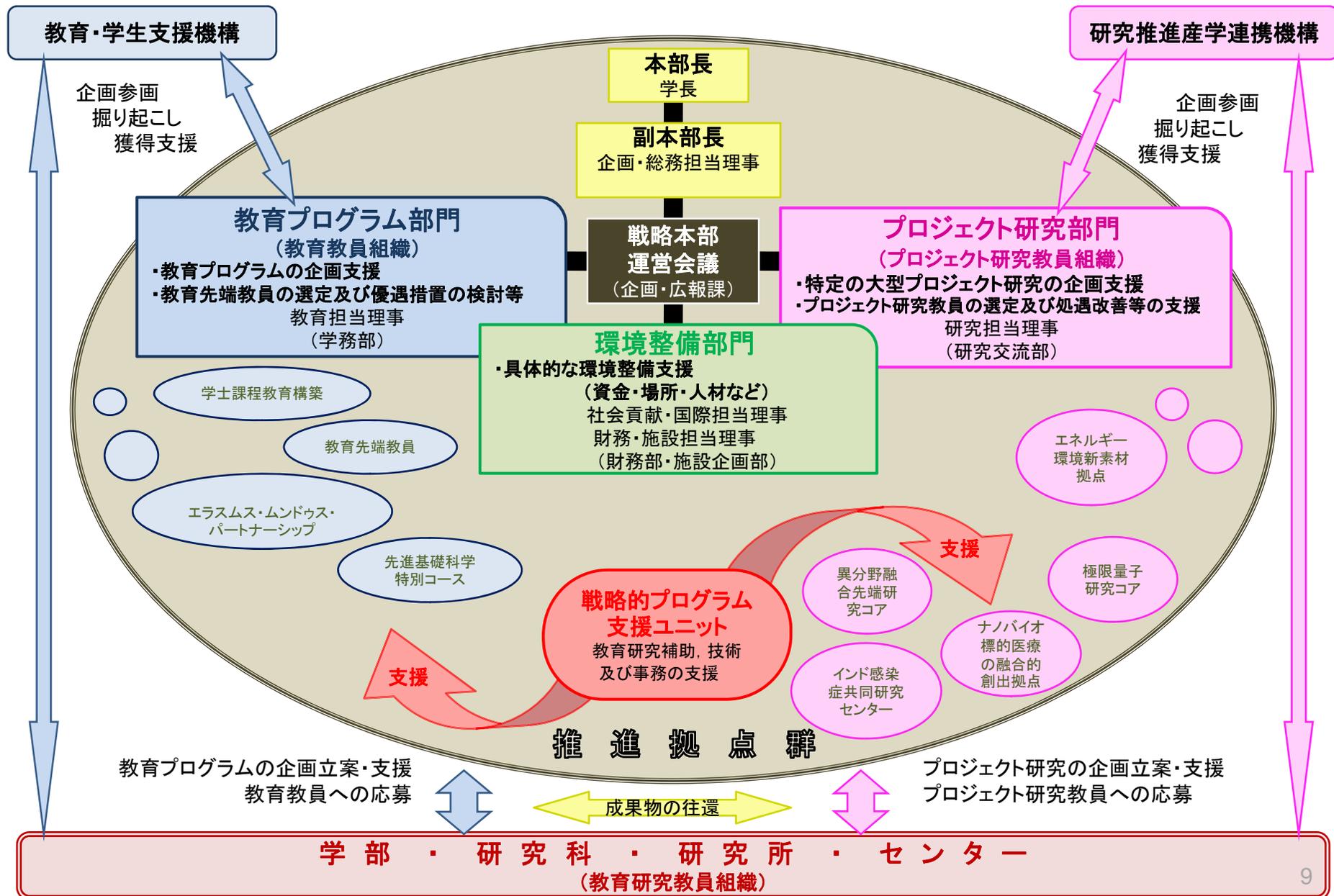
## ◆ 業務内容

1. 評価の基本方針の検討
2. 評価に係る資料の収集及びデータベースの管理・活用
3. 年度評価, 認証評価及び法人評価への対応
4. 評価結果に基づく検証及び改善策の検討

# 教員活動評価概念図



# 教育研究プログラム戦略本部(1) 組織



# 教育研究プログラム戦略本部(2) 機能

## 主な業務

- 目的別教育プログラムの企画支援
- 大型プロジェクト研究の企画支援
- 教育研究の推進に係る具体的な環境整備の支援

等

## 平成23年度支援対象

(※ ここでの「支援」とは、「戦略的プログラム支援ユニット」を通じた支援を指す。)

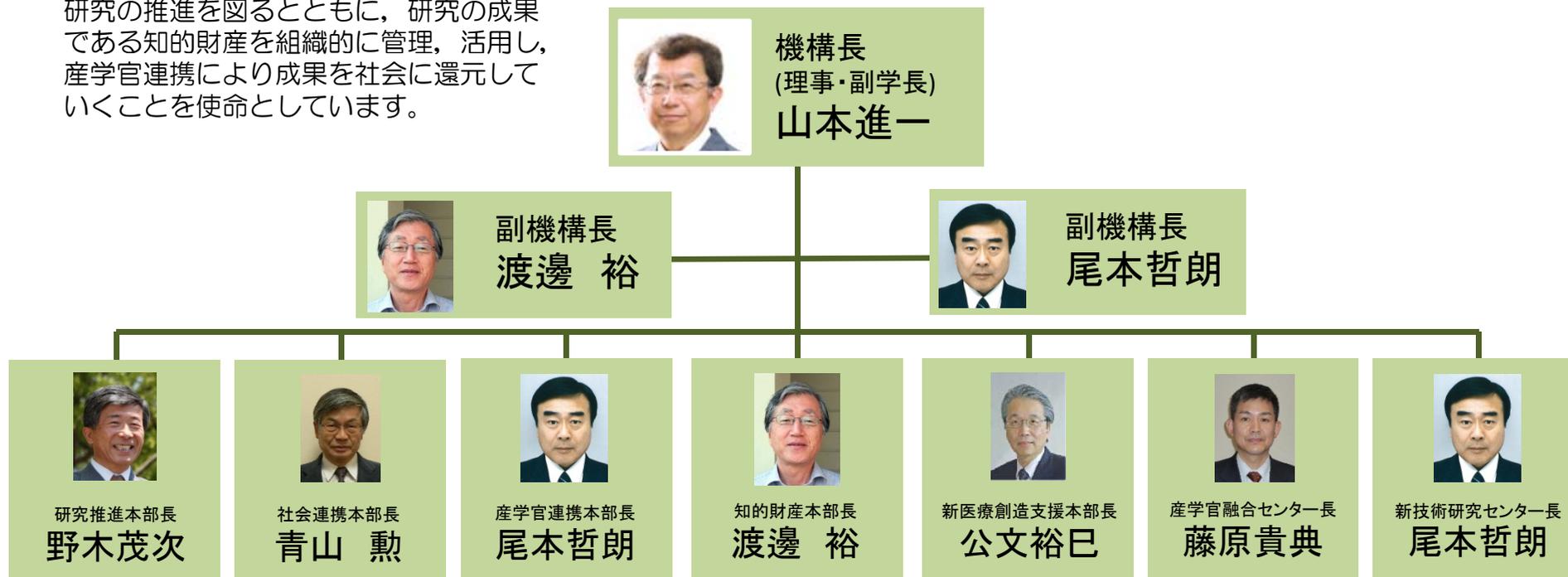
- 目的別教育プログラム: 5件
- 大型プロジェクト研究: 10件(推進拠点を含む)

## 推進拠点

名称	推進する教育研究プログラムの課題名等
異分野融合先端研究コア	自立若手許員による異分野融合領域の創出 「テニュアトラック普及・定着事業(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)」
ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点	ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成
極限量子研究コア	ニュートリノ質量分光に関する研究
インド感染症共同研究センター	インド国を拠点とした感染症国際ネットワーク推進プログラム 「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」
エネルギー環境新素材拠点	エネルギー生産, 貯蔵, 輸送有機新素材研究

# 研究推進産学官連携機構

岡山大学研究推進産学官連携機構は、戦略的に大学における広範な領域の学術研究の推進を図るとともに、研究の成果である知的財産を組織的に管理、活用し、産学官連携により成果を社会に還元していくことを使命としています。



研究推進産学官連携機構



産学官融合センター



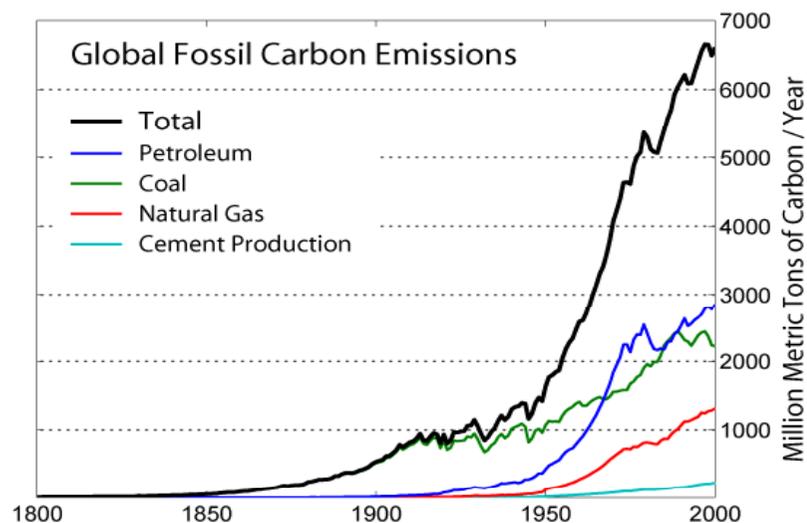
新技術研究センター



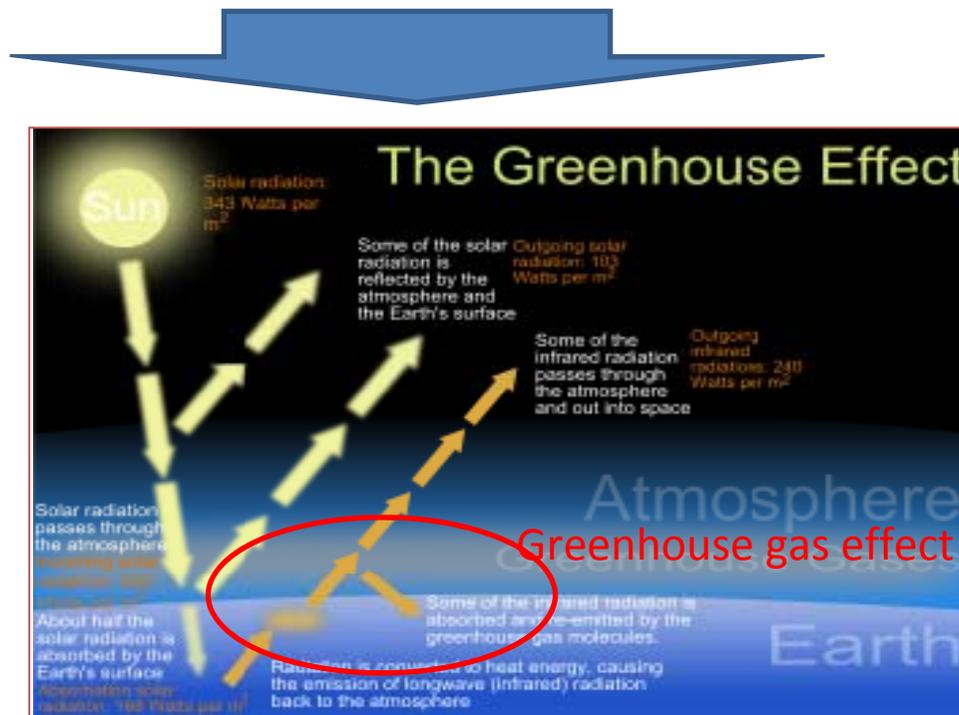
## Research Center of New Functional Materials for Energy Production, Storage and Transport

Drastic enhancement of greenhouse gas emission since the late 20 th century

Greenhouse gases that absorb and emit radiation within thermal infrared range:  
 $H_2O$  vapor,  $CO_2$ ,  $CH_4$ ,  $NO_2$  and  $O_3$ , Chlorofluorocarbons



[http://en.wikivisual.com/index.php/Greenhouse\\_gases](http://en.wikivisual.com/index.php/Greenhouse_gases)



# エネルギー環境新素材拠点の取組(2)

The center is organized by 13 principal investigators (Physics-Interface Science-Chemistry-Biological Science).

## 大学直轄の研究組織

拠点長: 久保園芳博

## 運営委員会

曾良達生 研究・学術担当理事  
則次俊郎 自然科学研究科長  
高橋純夫 理学部長  
久保園芳博 教授 (拠点長)  
西岡祐介 研究交流部長  
安藤仁志 自然科学研究科事務部長  
野原 実 教授 (拠点)  
田中秀樹 教授 (拠点)  
西原康師 教授 (拠点)

## Okayama University professors

4 professors in physics field  
5 professors in chemistry field  
2 professor in Surface Science  
2 professors in biological science

## 研究アドバイザー

齋藤軍治教授 (京大名誉教授-名城大)  
檜山為次郎教授 (京大名誉教授-中央大)

## 外部評価委員

根岸英一教授 (Purdue)  
岩佐義宏教授 (東大院工)  
高木英典教授 (東大院新領域)  
大峯 巖教授 (自然科学研究機構)  
三宅和正教授 (大阪大院基礎工)

Development of new functional materials and devices based on the strategies of the center

# エネルギー環境新素材拠点の取組(3)

## 会議名・開催日

会議名：エネルギー環境新素材拠点 研究戦略会議

開催日：平成23年3月24日

## 出席者

### 研究アドバイザー：

齋藤軍治(京都大学名誉教授・名城大学教授)

檜山爲次郎(京都大学名誉教授・中央大学教授)

### 外部評価委員：

根岸英一(米国パテュー大学特別名誉教授・岡山大学名誉博士)

エネルギー環境新素材

拠点運営委員会委員：曾良達生(理事(研究・学術担当))

久保園芳博(自然科学研究科 教授)ほか6名

エネルギー環境新素材

兼任教員：

横谷尚睦(自然科学研究科 教授)ほか8名 (運営委員は除く。)

オブザーバー：

阪田祐作(研究推進産学官連携機構 研究推進本部長)

青山 勲(研究推進産学官連携機構 研究推進本部副本部長)

## 開催趣旨

- 拠点教員からの研究の方向性やこれまでの達成状況等の説明・報告
- **外部評価委員等からの研究の方向性や強化すべき点等についての提案** 等

## 外部評価委員等の全体コメント(一部抜粋)

根岸先生)

有機の場合、新しい方法論というんですか合成方法をめざしておられました。それはそれで非常によいことだとは思いますが、しかし、それとさらにカップルして自分たちの考えられる様なターゲットやもう少し先取りするようなターゲットをさらに非常に能率よく“YES”と言う方法で作っていくようにしたらいいのではないかと思います。むしろそちらを優先してから方法論をサポートしていく。要するに、どうしてもこういう風にしたいなという様に進めていくと、方法論を考える時も変わってくると思うので、そういう形でやるようにもっていくとさらに一段とすばらしい物になるのかなという印象を受けました。

檜山先生)

例えば、双極子モーメントだって化学はプラスからマイナスにこの様に矢印を書くのですが物理は逆です。これに見られるように、分野によって言葉や考え方が違うということがよくわかります。なので、お互い知り合うということがまず第一で、そのうちにお互いに望んでいる物が何かということに尊敬しあって進めていくことが出来ればうまくいくと思います。今日は皆さんそれぞれお得意のところの話だったと思うんですけれども、それぞれベクトルを共通の目標に向けて、いかに軌道修正してお互いに進んでいく事が出来るかが非常に重要になってくるという気がします。

齋藤先生)

実力プラス宣伝がやはり必要なんです。先生方の今日の発表を聞いていて、まだ宣伝が足りないから、もっと宣伝をしたらい仕事世界に広まっていっているだろうなという瞬間がたくさんありました。

※ 太字・下線は、講演者にて加筆。